

4 ことら Web View サービス

キャッシュレス決済アプリ等幅広いアプリへの「ことら」接続支援により、手軽な個人間送金の普及を後押し

「ことら」は、金融機関・資金移動業を結び、より安価で便利に事業者間の資金移動を可能とするサービスとして株式会社ことら^{※1}より提供され、大手銀行含む21事業者が初期段階から参加し、2022年10月にスタートした。ことらを支えるシステムの開発を担っているNTTデータは、アプリでことらを簡単に始められる「ことら Web View サービス」を提供している。

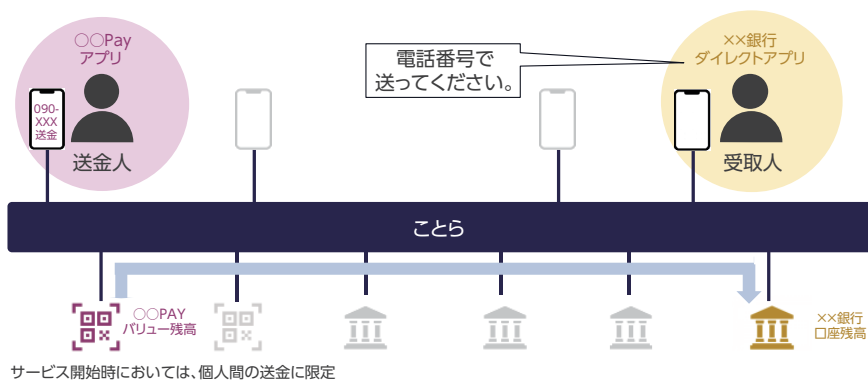


図1 ことらにより実現する世界観



株式会社NTTデータ
ペイメント事業本部
C&P 事業部
福沢 悦氏

安価で便利な資金移動を実現する「ことら」

ことらは、金融機関や〇〇Payといった資金移動業をつなぎ、金融機関間の送金はもちろんのこと、〇〇Payアプリのバリュー残高から金融機関への送金といった事業者の壁を越えた送金も可能としている

(図1、2)。

送金人がことらに対応するアプリを持っていれば、受取人がアプリを持っていなくても従来の振り込み同様口座を指定し送金ができる。さらに受取人がアプリで、あらかじめメールアドレスや電話番号を口座情報と紐づけておくことで、メールアドレス・電話番号を指定しての送金

が可能だ。同じ〇〇Payユーザーでなくても、事業者をまたいで電話番号等で口座やアカウントを指定し送金が可能となる点が、これまでの仕組みとは大きく異なっている。

ユーザーにとっては、相手の口座情報を入力して送金するという手間が省けることに加え、手数料は無料もしくは少額^{※3}。友人との割り



図2 ことら送金の使い方 (Bank Pay の場合)^{※2}

勤、家族間での送金、別の口座への振替などに活用されている。

現金管理コストの削減や顧客接点の拡大にもつながる

ことらがターゲットとしている個人間の10万円以下の小口送金は、振込手数料の高さもあり、これまでは主に現金でやり取りされてきた。ATMを利用して現金を引き出し、別の口座に入金する、相手に手渡しをする、などの手間がかかり、近年はより小回りの利く資金移動業者のアプリを利用する人も増えている。ことら社によると、実際にエンドユーザーから「給料日後に別の金融機関口座への預け替えのためにATMに並ばなくてもよくなった」といった声が寄せられているという。

金融機関は、ことらを利用することで、これまで逃してきた顧客との接点の拡大が図れると同時に、現金の利用を減らすことで、膨大な現金管理コストの削減につながることも可能となる。

アプリからの「ことら」への接続を簡単かつスピーディに実現するWebViewサービス

ことらでは、より多くの金融機関にとって導入しやすいものとするため、ことらのインフラとして1000程度の金融機関が接続している「J-Debit」で利用されている基盤を活用した。引落しや入金などの処理はこの基盤で処理することができるが、ことら対応に必要なアプリ画面の用意や、送金・残高照会などのAPIの接続が必要となる。

それら、送金画面からことらシステムとの接続に必要なAPI機能

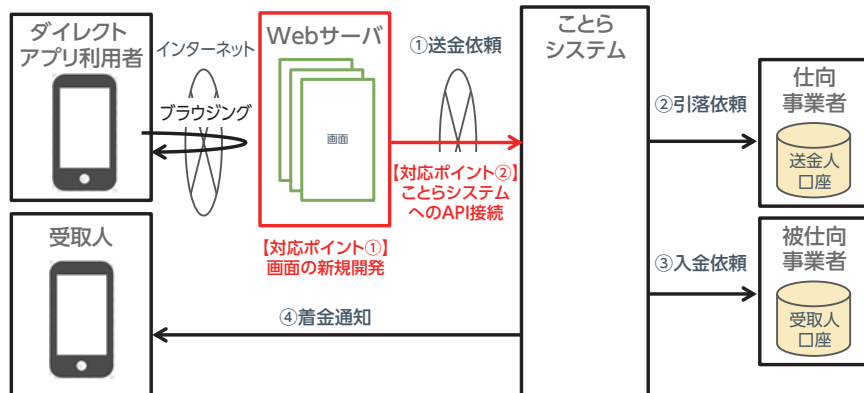


図3 ことら WebView サービスの概要

までを「ことら WebView サービス」（図3）で一括提供することで、アプリへのことら送金機能の組み込みを簡単かつスピーディに実現できる。

ことら WebView サービスにおける様々なアプリへの対応

ことら送金サービスを提供したいアプリにWebViewサービスを組み込み、アプリ上に「ことら送金」のボタンを作れば、そこからことらの個人間送金の画面をWebViewとして提供し、スマホアプリ内に組み込むブラウザが立ち上がるため、ユーザーは外部ブラウザへ遷移することなくアプリ内で操作を完結することができる。

送金画面のレイアウトは共通のものとなるが、ロゴやヘッダーの色はカスタマイズ可能だ。

また、送金を伴わない名義照会の回数制限や、1日当たりの送金累積額の上限チェックなども付加機能として提供する。

自社アプリだけではなく、NTTデータが提供している個人向けバンキングアプリサービス「My Pallete®」でも、ことら WebView サービスを組み込んでおり、My Pallete を利用している金融機関においては、バン

キングアプリ内で容易にことら送金サービスを追加できるものとなっている。

ことらの利用拡大につながる機能開発を進める

ことら WebView サービスでは、税公金納付機能も提供開始した。QRコードの読み取り画面や納付画面などのアプリ画面からことらシステムとの接続に必要なAPI機能までを一括で提供することで、アプリにおけることら対応が簡単に行えるようにする。

今後も、NTTデータでは、ことら WebView サービスの提供を通じて、インターネットバンキングやキャッシュレス決済アプリ等幅広いアプリへのことらの組み込みをサポートし、新しい個人間送金方法ことらの普及促進と、多様化するユーザーの送金ニーズへの対応とさらなる金融取引の活性化に貢献する。

※1：株式会社みずほ銀行、株式会社三菱UFJ銀行、株式会社三井住友銀行、株式会社りそな銀行、株式会社埼玉りそな銀行による多頻度小口決済のための新たな決済システムの企画、運営をおこなう合弁会社。

※2：メッセージの送付はメールアドレス・電話番号を指定した送金の場合にのみ可能。

※3：手数料は、各金融機関・資金移動業により異なる。